

《第1号議案》 2020年度事業報告

1. 部落問題・人権問題に関する各種の調査研究

(1) 部落問題の歴史的研究（主任研究員 塚田孝・竹永三男）

2020年度の事業計画では、人権や民主主義をめぐる状況と運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、身分や部落問題、人権にかかわる諸問題について各時代の全社会構造の中で具体的に、とりわけ地域社会の構造との関連で把握する研究に取り組むことを課題とした。

1. 科学研究費助成事業による研究活動

上記の課題を具体化し、集中的に取り組むため、科研による共同研究を組織した。

①2020年度に研究期間を満了する「近世・近代の日本における「行き倒れ」とその救済の歴史的特質の究明」（研究代表者藤本清二郎、基盤研究（C）は、下記の研究例会を開催するとともに、研究成果報告書として『近世・近代の日本における「行き倒れ」とその救済の歴史的特質の究明—国際比較を加味して—』（論文13編、387頁）を刊行した。

②4年間の研究期間の3年目を迎えた「都市部における教職員組合運動と教育実践—大阪・京都・奈良の比較史的考察—」（研究代表者坂井田徹（森下徹）、基盤研究（C）は、引き続き関係史料の調査・収集・分析を進めた。

③2021年度の科学研究費助成事業公募に際し、奈良県の地域に即して部落を含む地域総体の社会構造とその変容を究明する新たな共同研究を計画し、共同討議を経て、「奈良県の地域構造変容と部落問題に関する歴史的研究—地域構造分析・比較研究を通して」（基盤研究（B）、研究代表者・竹永三男、研究分担者9人、2021～2025年度）の課題で申請した。※本申請課題は、2021年4月に採択された。

2. 研究会の開催

会員などの研究を取りまとめ、研究成果の共有を進めるため、多様な研究会を実施した。

①「コロナ禍」の中でのオンライン方式による研究会の開催

2020年度の研究活動の阻害要因となったものは「コロナ禍」の拡大であった。そのため、感染拡大の防止を第1の課題とし、対面方式による研究会の開催は断念して、すべての研究会、部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ・歴史Ⅱ分科会および研究打ち合わせ会議をZOOMを利用したオンライン方式によって行った。

研究会のオンライン開催は、システム利用環境に依存するため、参加が困難になる人々を生ずる一方、研究会出席のための移動にともなう旅費負担・時間的制約を軽減することから、遠隔地からの参加、若い世代の参加、初めての参加を大きく増やす効果もあった。今後、オンライン開催方式の利点を活かし、隘路を解消・軽減することにより、「コロナ禍」以後も見越した研究会開催方法の工夫が必要である。

②藤本清二郎氏を研究代表者とする上記の科学研究費助成事業の研究例会を次のとおり開催した。

2020年

8月2日（オンライン開催）

竹永三男：戦前・戦時下の東京における「行き倒れ」の実態と構造

2021年

1月12日（オンライン開催）〈奈良県における地域構造・社会運動と部落問題〉

大森 実：研究史の検討

梅本哲世：2020年度部落問題研究所研究者集会の全体会報告の補足

—1990年代以降を中心に—

岡田雅一・竹末勤：奈良県における部落問題・社会運動関係史料調査の成果と課題

3月23日（オンライン開催）

竹永三男：近代日本における「行き倒れ」の地域的構成・推移とその特徴

飯田直樹：町共同体の解体と捨て子養育の変容—孤児院の設立と相互扶助の行方

大杉由香：近代日本の災害時における子どもへの対応—問題はどうか社会で受けとめられたのか—

茂木陽一：三野村利左衛門と三井組育児方について

町田 哲：近世の札所寺院と行き倒れ—四国霊場5番札所地藏寺を中心に—

藤本清二郎：「非人」「乞食」と「非人体」「乞食体」の片付について

塚田 孝：史料紹介—大坂「千日墓所一件」に見える心中

沢山美果子：明治初期岡山県の墮胎圧殺禁止衆議書と棄児院構想をめぐって

—岡山県吏野崎家資料にみる—（レジュメ報告）

③部落問題研究者全国集会歴史分科会（オンライン開催）

歴史Ⅰ分科会・歴史Ⅱ分科会ともオンライン方式で開催したが、初めての試みであったことから、午前中に歴史Ⅰ分科会、午後に歴史Ⅱ分科会を開催した。

その結果、両方に参加できる時間的条件をつくれたが、報告・討論に時間的制約が生じた。

○歴史Ⅰ分科会〈近世の医療・解剖とその担い手の諸問題〉

海原 亮：近世の医学・医療と触穢観念—解剖学の発展を例として

○歴史Ⅱ分科会〈近代の沖縄—「本土」関係の再検討—沖縄出身者の移動と同郷結合の視点から〉

櫻澤 誠：近代における沖縄出身者の「本土」への移動と「相互扶助」

青柳周一：19世紀末、沖縄・内地間修学旅行の歴史的位置—生徒たちの意識と互いのまなざし—

3. 他学会等との研究活動の共同

2021年3月23日に開催した科学研究費助成事業（研究代表者・藤本清二郎）の成果報告会研究例会を、同じく科学研究費助成事業「子どもの命と人権に関する地域史研究—近世・近代・現代社会の連続面と断絶面を考える」（研究代表者・大杉由香氏、大東文化大学）との共催で開いた。

(2) 現代部落問題論・人権論の研究（主任研究員 奥山峰夫）

研究の重点として、①「人権問題意識調査」の検討、②「部落差別解消推進法」をめぐる動向の検討、③地域における人権諸課題の実証的研究、をあげて取り組んできた。

【現代部落問題論・人権論研究会】

3月26日 陳意：農村高齢者の経済的な扶養問題をめぐって中国における都市と農村部間の生活水準の格差—中部地区の湖南省を対象とした—

【部落問題研究者全国集会 現状分析・理論分科会】対面方式とオンライン方式を併用して開催

10月25日 高倉弘士：『部落差別の実態に係る調査報告書』（法務省人権擁護

局)の検討

丹波真理：「部落」はいまどうなっているか

丹波史紀：日本国憲法における生存権概念の規定と森戸辰男の果たした役割

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究 (主任研究員 梅田 修)

1. 科学研究費助成事業(科研費)の交付を受けて遂行している研究

「人権教育における人権認識の内容と形成過程に関する基礎的研究」(研究代表者・梅田修、基盤研究(C)2018年～2020年)に基づく3年目の研究を推進した。

2. 各種の研究会での報告

【教育研究会】

教育研究会では適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。
2020年

6月14日 八木英二：ディーセント・ワークとしての教師専門職論—2019給
特法改正の働き方「改革」をどうみるか

9月13日 碓井敏正：国家の教育支配の新段階(キー・コンピテンシー、道徳科)
と対抗軸

2021年

3月14日 川本治雄：学校教育の現状と授業実践における取組の重点—社会認識
の基礎からの育成に向けて—

【部落問題研究者全国集会 教育分科会】会場は、部落問題研究所(対面方式)

第58回部落問題研究者全国集会「教育」分科会では、テーマ「道徳教育と人権教育」にもとづき、次の報告と討議を行った。

10月25日 山崎 洋介：日本の教育条件改善の展望—少人数学級制と教職員定数
増を中心に—

植田 健男：「コロナ禍」のもとで改めて問われた教育課程づくりの
今日的課題

3. 学術論文等の発表

科学研究費助成事業(科研費)による「人権教育における人権認識の内容と形成過程に関する基礎的研究」(研究代表者・梅田修、基盤研究(C)2018年～2020年)を推進し、2020年度は次の論稿を発表した。

梅田 修：「部落差別の実態に係る調査結果」の検証

川辺 勉：人権が問われながら麻痺していく人権の感覚

川本治雄：学校教育の現状と授業実践における取り組みの重点—社会認識の基礎からの育成に向けて—

八木英二：コロナ禍の教育政策と「個別最適な学び」

(4) 人権に関わる文芸の研究(主任研究員 秦 重雄)

【文芸研究会】会場は、部落問題研究所

コロナ禍の中、延期を余儀なくされながらも、例会(第217～219回)を開催してきた。各回の日時およびテーマは次に示すとおりである。

第217回(6月28日) 堤玲子作「特殊部落鴉になるか狼になるか」を読む

第218回(9月20日) 李龍徳作『あなたが私を竹槍で突き殺す前に』を読む

第219回（3月21日） 井上俊夫作『ベッド・タウン』を読む（前半）

なお上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の「文芸研究会ニュース」に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、240回を数えている。

【部落問題研究者全国集会 思想・文化分科会】会場は、部落問題研究所（対面方式）

第58回部落問題研究者全国集会・「思想・文化」分科会では、〈テーマ：ディストピアを乗り越える力を探る〉に基づき、次の報告と討議を行った。

10月25日 秦 重雄：李龍徳作『あなたが私を竹槍で突き殺す前に』を読む

2. 部落問題の解決過程に関する研究成果の普及

部落問題研究所創立60周年を記念して実施された「部落問題解決過程の研究」の共同研究の成果は、『部落問題解決過程の研究』全5巻として完結した。この全5巻とともに、共同研究の成果を反映させた、部落問題研究所編『ここまで来た部落問題の解決』（2017年刊行）を刊行し、普及に努めてきた。

2021年度の科学研究費助成事業に申請したことをふまえ、新たな部落問題解決過程の総合的地域史研究（奈良県が対象）に着手した。

3. 部落問題研究者全国集会などの開催

2020年10月24日（土）～10月25日（日）に、対面方式とオンライン方式を併用して開催した。参加者は延べ167人（対面37人、オンライン130人）であった。

（1）全体集会（1日目）は、「コロナ危機が問う日本社会の人権と民主主義」をテーマに、次の2つの報告もとづいて質疑・討論を行った。

- ・梅本哲世「新自由主義時代の人権と民主主義—部落問題解決過程にかかわらせて—」
- ・石倉康次「コロナ渦による社会福祉の危機と課題」

（2）分科会（2日目）は、5つの分科会（歴史Ⅰ・Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化）ごとに報告・討論をおこなった。

4. 『所蔵図書・資料総合目録』の作成及び図書・資料の収集・紹介に関する事業

（1）『部落問題研究所所蔵図書・資料総合目録』の作成

1) 総合目録の内容を確定した。

① 図書目録

② 資料目録—「三好文庫」「北原文庫」「水平文庫」「北川文庫」

③ 視聴覚等資料（写真、ビデオ、スライド、映画、テープ、ポスター、パネル、絵画、軸物）目録

2) 三カ年計画の2年度（2020年度）は、「③視聴覚等資料」の整理とデータ入力をほぼ完成し、資料目録（4文庫）のデータ入力を進めた。

(2) 部落問題関係図書・資料の収集

北大開示文書研究会編『アイヌの権利とは何か』（かもがわ出版）などの図書を購入した。また、多数の図書・資料の提供を受けるとともに、歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸などに関する資料の収集を進めた。

(3) 関係図書・資料の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

5. 機関誌・研究紀要・学術図書等の刊行

(1) 『人権と部落問題』（月刊）を毎月2300部、年12回を編集・刊行した。

特集のテーマは、次の通りである。

「新学習指導要領の全面実施—いま求められる教育とは」（4月号）

「『表現の自由』を守れ」（5月号）

「ハンセン病家族訴訟の勝訴」（6月号）

「ジェンダー平等の社会を」（7月号）

「戦後の平和を見つめて」（8月号）

「環境破壊に立ち向かう」（9月号）

「介護保険20年の検証」（10月号）

「コロナ渦が浮き彫りにした日本の教育」（11月号）

「法務省『部落差別の実態に係る調査結果』の検証」（12月号）

「コロナ渦一命と向き合う現場」（1月号）

「在日コリアンと人権」（2月号）

「『3・11』10年目の現実」（3月号）

(2) 紀要『部落問題研究』の233輯、234輯、235輯、236輯を各500部刊行した。主な論稿は、次の通りである。

233輯 第57回部落問題研究者全国集会報告

234輯 塚田 孝「道頓堀周辺の非人行倒れ」

河野 健男「戦後京都の部落調査の変遷」

三上 昭彦「国連・子どもの権利条約と広報・普及活動の意義（上）」

235輯 中川 未来「近世・近代移行期における人の国内移動管理と四国遍路」

竹永 三男「戦前・戦後体制下の東京における『行き倒れ』の実態」

三上 昭彦「国連・子どもの権利条約と広報・普及活動の意義（下）」

236輯 特集 人権と教育をめぐる動向と課題

梅田 修「『部落差別の実態に係る調査結果』の検証」

川辺 勉「人権が問われながら麻痺していく人権の感覚」

川本 治雄「学校教育の現状と授業実践における取り組みの重点」

八木 英二「コロナ渦の教育政策と『個別最適な学び』」

藤本清二郎「近世の善光寺・周辺地域における移動と行き倒れ・救済」

研究委員会の中に『部落問題研究』の編集担当（6名）を置いて編集を進め、定期発行を実現した。

(3) 関係図書の編集と刊行

1. 東上 高志『部落問題とは何だったのか（東上高志の仕事1）—部落問題の実相』（2020年10月）200部刊行
2. 東上 高志『部落問題とは何だったのか（東上高志の仕事2）—同和事業と逆流』（2020年11月）200部刊行
3. 東上 高志『部落問題とは何だったのか（東上高志の仕事3）—同和教育とは』（2021年1月）200部刊行
4. 部落解放運動研究会編『部落解放運動と塚本景之一分裂を乗り越えて』（2021年3月）500部刊行

6. 法人の機能を活用した各種サービス

(1) 輪読会・読む会の開催

1. 島崎藤村「新生」「家」の輪読会
コロナ渦の影響で、輪読会は年4回の開催にとどまった。
2. 「水平新聞」を読む会
全国水平社創立100年（2022年）を迎えるにあたり、「水平新聞」を読む会を立ち上げ、月1回程度開催した。

(2) 研究会の開催

歴史、現代部落問題・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は、各種の調査研究の項を参照のこと）。会場は、明記したもの以外は部落問題研究所。

- 6月14日 教育研究会（部落問題研究所）
- 6月28日 文芸研究会（部落問題研究所）
- 8月2日 歴史（科研費）研究会（オンライン）
- 9月13日 教育研究会（部落問題研究所）
- 9月20日 文芸研究会（部落問題研究所）
- 10月24日 第58回部落問題研究者全国集会 全体会（オンライン及び
- 10月25日 第58回部落問題研究者全国集会 分科会 部落問題研究所）
- 1月12日 歴史研究会（オンライン）
- 3月14日 教育研究会（部落問題研究所）
- 3月21日 文芸研究会（部落問題研究所）
- 3月23日 歴史（科研費）研究会（オンライン）
- 3月26日 現代部落問題論・人権論研究会（部落問題研究所）

(3) 学習講座の開催

第2回学習講座を実施した。

1. テーマ：現代の人権を考える

2. 講座内容

第1日（2021年2月21日）

高倉 弘士「『部落差別解消推進法』と実態調査について」

杉島 幸生「インターネットと『部落差別』」

第2日（2021年3月7日）

牧野 広義「優生思想と人間の尊厳」

石田 一紀「介護保険の20年と高齢者の人権」

3. 参加者 第1日 13名／第2日 12名

（4）講師の斡旋

部落問題・人権問題の講師派遣については、コロナ渦の影響で依頼が減少したが、「部落差別解消推進法」に係わって開催された各種集会や人権講座への講師要請に応じてきている。

（5）関係資料の閲覧・貸し出し

部落問題・人権問題に対する資料の貸し出し要請に対応してきた。

（6）相談活動

部落問題・人権問題に対する各種相談に対応してきた。

7. 目的を同じくする各種機関・団体との連絡・協力

全国各地で活動している研究機関・研究会などと連絡を密にして、研究・調査・学習などの事業について、協力関係を発展させてきた。

「全国水平社創立100年」に向けて、全国地域人権運動総連合などと準備会を組織し、取り組みについて議論を重ねてきた。

8. 役員会等の開催

（1）臨時総会の開催

2021年4月25日（日）に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

①2021年度事業計画

②2021年度資金調達及び設備投資の見込みについて

③2021年度収支予算

（2）役員会

1) 理事会を 回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

第1回 議事 ①「緊急事態宣言」の解除に伴うコロナ対策について

(6月6日) ②2020年度定時総会の議案

③募金活動について

- ④研究活動について
- ⑤HPの更新について
- 第2回 議事 (6月21日)
 - ①2020年度定時総会の議案
 - ②会員・読者への「訴え」
 - ③財政担当職員の新規採用について
- 第3回 議事 (9月20日)
 - ①財政活動について
 - ②ZOOM周辺機器の購入と関連工事
 - ③研究活動について
 - ④財政担当職員の新規採用について
 - ⑤蔵書目録の作成方針
 - ⑥法務省『部落差別に係る調査結果報告書』について
- 第4回 議事 (12月13日)
 - ①財政活動について
 - ②研究活動について
 - ③事業活動について
 - ④将来検討委員会について
 - ⑤建物の修繕について
- 第5回 議事 (3月6日)
 - ①臨時総会の開催
 - ②定時総会の開催
 - ③2021年度事業計画(案)
 - ④『部落問題研究』の編集
 - ⑤財政担当職員の採用について
- 第6回 議事 (4月10日)
 - ①財政担当職員の退職と新規担当職員の採用
 - ②臨時総会の議案と運営
 - ③定時総会の延期に関する決議
 - ④図書資料の保存・委譲について
- 第7回 議事 (4月25日)
 - ①2020年度臨時総会の議案

2) 監事による監査

監事(4名)は、5月26日部落問題研究所、および5月31日の文書回答により2020年度定時総会(6月21日)に附議する業務執行状況・財産状況について監査した。

(3) 委員会

2019年度より、5つの委員会体制(編集委員会・研究委員会・財政委員会・事業委員会・資料委員会)をとっている。2020年度は、編集委員会を12回、研究委員会を6回、財政委員会を4回、事業委員会を6回、資料委員会を2回開催し、所管の事項を審議した。

(4) 所内会議・事務局会議

役職員全員による所内会議を2回開催し、部落問題研究所の運営について適宜協議した。また、適宜理事長・常務理事・職員・ボランティアによる事務局会議を開催した。

(5) 将来検討委員会

2016年7月18日に発足した第二次将来検討委員会は、2016年度は5回、2017年度は3回、2018年度は1回、2019年度は2回、2020年度は3回開催し、部落問題研究所の将来展望に関わる課題（研究活動・財政問題・図書資料の保存）について検討してきた。

(6) 会員の異動状況

2020年度末会員は、表の通りである。

会員数動向 2020年度

種別	2019年度末	2020年度		2021/3/23現在	増減
		入会	退会		
A 12,000	231	1 ----- 4	18	218	-13
B 6,000	41	-1 ----- 6	2	44	3
C 20000	75	----- ----- -----	1	74	-1
賛助D 50,000	18	----- ----- -----	3	15	-3
E 特別会員	3	----- ----- -----	-----	3	0
		----- ----- -----	-----	0	0
種別移行計		1	-----		
合計	368	10	24	354	-14

(注) 2020年3月20日の理事会で公益社団法人部落問題研究所会費規程を改定した。会員A・会員Bはそのままであるが、賛助会員Cは会員Cに、賛助会員Bは賛助会員Dに変更し、賛助会員Aは会員がいないので廃止した。

(7) ボランティアの協力

2020年度に新たに1名の参加があり（元高校教師）、現在9名の方がボランティアとして来所されている。図書資料の整理、「会報」の作成、雑誌の編集・校正、図書資料のデータ入力の仕事に携わってもらっている。